

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和3年9月1日 第23号
件 名	「グリホサート農薬」の入っていない安心安全な学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 200px; height: 15px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 150px; height: 15px; margin-bottom: 5px; margin-left: 50px;"></div> <div style="background-color: black; width: 250px; height: 15px; margin-left: 100px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ                      小 林 れい子
請願の要旨	次頁のとおり
付託委員会	文教委員会

## 請願理由

現在、新型コロナウイルスの感染爆発が起きており、子ども達の命と健康を守る対策が早急に求められています。毎日の学校給食で出来ることは、子ども達の自己免疫力を最大限に高めて、感染症にかからない丈夫な身体づくりをサポートすることです。しかし、文京区の学校給食のパンや麺には、国会でも取り上げられ問題になっている輸入小麦が使用されています。輸入小麦からは、非常に高い確率で「グリホサート農薬」が検出されています。

「グリホサート農薬」は「ラウンドアップ」の商品名で販売されています。WHOの下部組織である国際がん研究機関は、「グリホサートは人に対しておそらく発がん性がある」と発表しました。コロナ禍の今、特に懸念されることは「グリホサート農薬」の摂取により、子どもの自己免疫力が落ちてしまうことです。人間の免疫の7割は腸内にあります。新型コロナウイルス感染者に行った調査では、重症者は軽症者に比べ、腸内の善玉菌が不足していました。抗生物質としても特許が取られ、殺菌作用のある「グリホサート農薬」は腸内の善玉菌を減少させ、悪玉菌を増やすことが指摘されています。また「グリホサート農薬」は、安全とされる基準値以下の低濃度でも腸内細菌に悪影響を及ぼすこともわかっています。

現在、「グリホサート農薬」はフランス、ドイツ、イタリアなど世界40カ国で禁止または規制がされています。2018年のアメリカの裁判では、製造元のモンサント社（現バイエル社）は、発がん性を認識しながらも隠ぺいしていたことが発覚し、約87億円の賠償を命じられています。また、アメリカ環境保護庁（EPA）も、2016年に自身で検証した結果、「ラウンドアップ」とがんの間に明確な関係があると断定していたことが内部文書から判明しています。現在アメリカでは、「ラウンドアップ」を使用してがんになったという訴訟が12万件起きています。

コロナ禍の今、文京区職員の皆様も区議会議員の皆様も区民の命と健康を守るために各現場で必死に取り組んでおられます。その流れをいっそう加速するためにも、輸入小麦を止めて、子ども達の自己免疫力を高くする食材に変更して頂けないでしょうか。農薬評価書によると、「グリホサート農薬」の体内からの排出には1週間程度かかります。安全性に疑いがあるものは使用しないという予防原則に基づき、子ども達の命と健康を守るために学校給食で出来る最善の取り組みを文京区に求めます。

以上のような観点から、文京区に対して下記のことを働きかけて頂きたい、貴議会にお願いいたします。

## 請願事項

- 1 新型コロナウイルスから子ども達を守るため、安全とされる基準値以下でも腸内細菌を減少させ、自己免疫力を低下させることが指摘される「グリホサート農薬」の残留が懸念される輸入小麦を使用したパンや麺の学校給食での提供は予防原則に基づいて止め、米飯または安心安全な食材に変更してください。
- 2 文京区の学校給食における「グリホサート農薬」の残留実態を把握するため、輸入小麦を使用する際は、食材を使った後に「グリホサート農薬」の数値測定をすることを検討してください。